

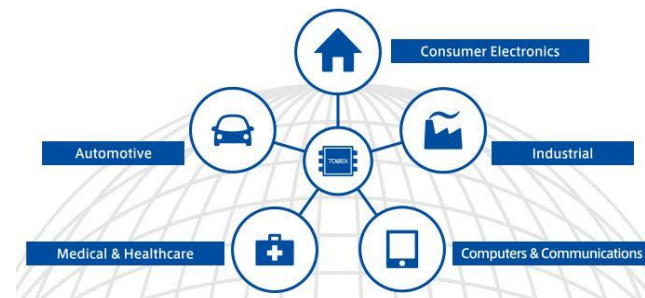
2019年3月期 第1四半期 決算説明資料

2018年8月10日

トレックス・セミコンダクター株式会社

世界は「アナログ」でできている

あらゆるフィールドで活躍するトレックスの電源IC



1

2019年3月期 第1四半期業績

2

2019年3月期 業績予想

3

株主還元

Appendix

2019年3月期 第1四半期業績

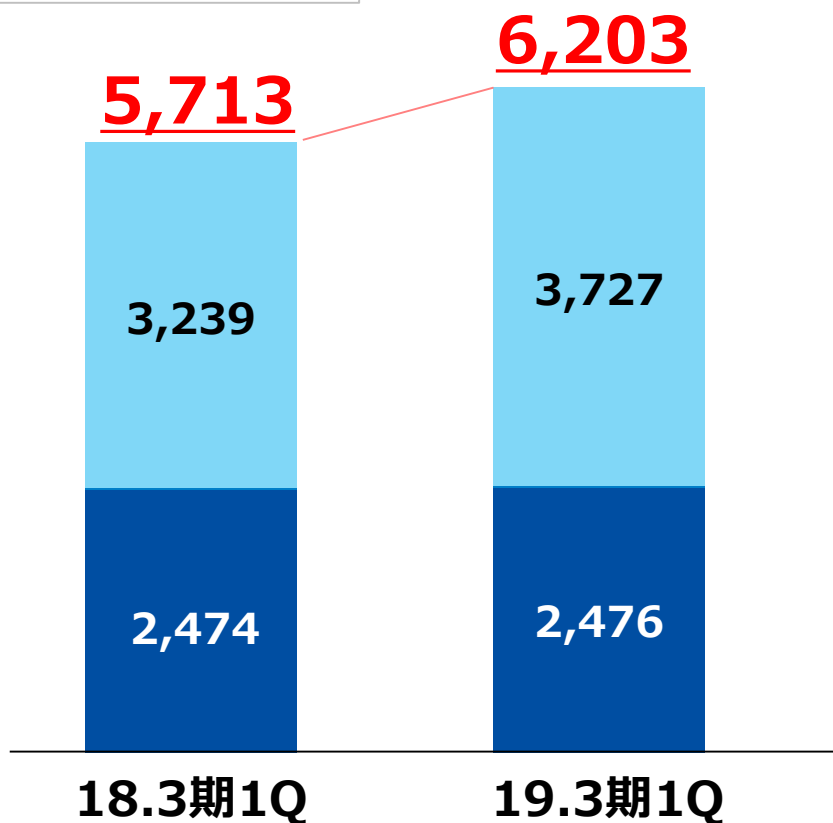
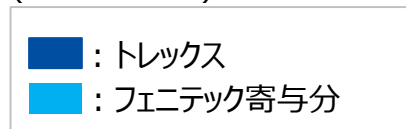
- ▶ フェニテックは、前年度に引続き好調な販売継続
- ▶ トレックスは、民生品分野への販売低調により横ばい
- ▶ トレックスは産業分野、フェニテックは車載分野が好調

(単位：百万円)

科目	18.3期 1Q実績	19.3期 1Q実績	対前年同期比 増減率
売上高	5,713	6,203	8.6%
営業利益	455	675	48.3%
営業利益率	8.0%	10.9%	2.9pt
経常利益	465	923	98.3%
親会社株主に 帰属する四半期純利益	234	496	112.1%
EPS（円）	25.87	45.72	76.7%
海外売上高比率（*1）	72.0%	68.2%	▲3.8pt
平均為替レート（1\$=）	¥111.6	¥108.7	-
減価償却費	221	195	▲11.8%
設備投資	137	426	210.9%

（*1）海外売上高比率：外貨建て売上比率

(単位：百万円)



➤ トレックス

- 産機分野が好調に推移
- 民生品向けが低調で横ばい
- 国内は回復基調継続

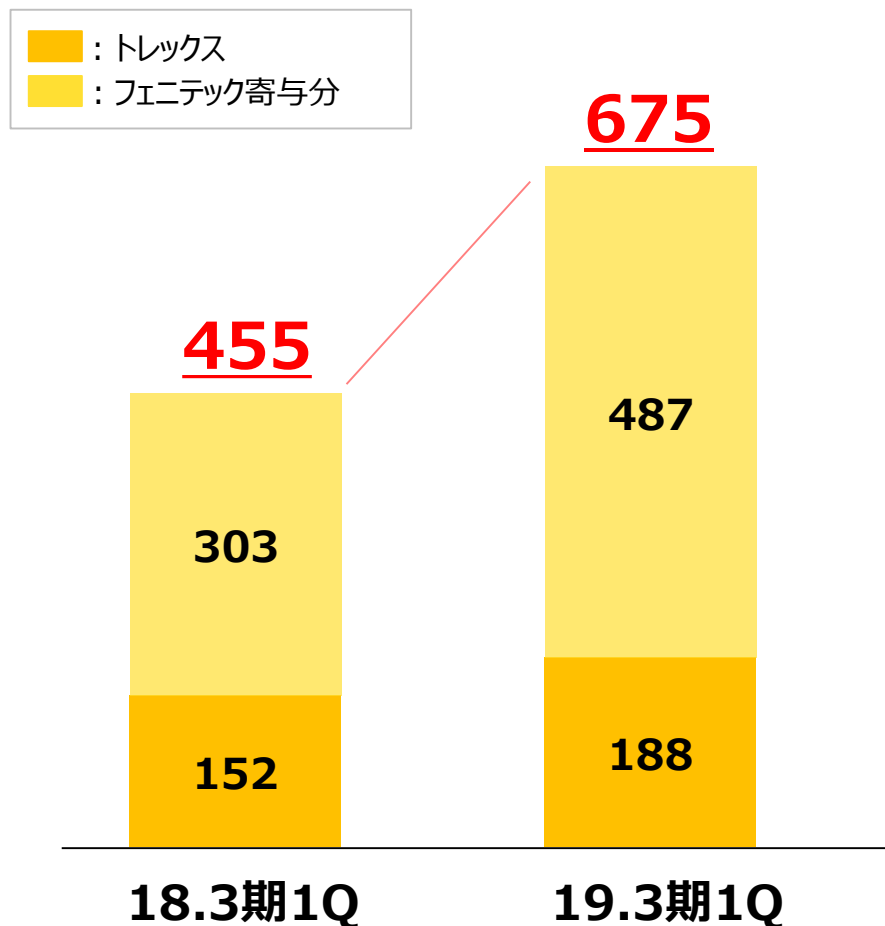
➤ フェニテック

- 国内やアジアの販売が好調
- ディスクリートが好調

(単位：百万円)

	18.3期1Q 実績	19.3期1Q 実績	対前年同期比増減率
売上高	5,713	6,203	8.6%

(単位：百万円)



➤ トレックス

- 売上総利益は横ばい、減価償却費等の販管費減少により増益

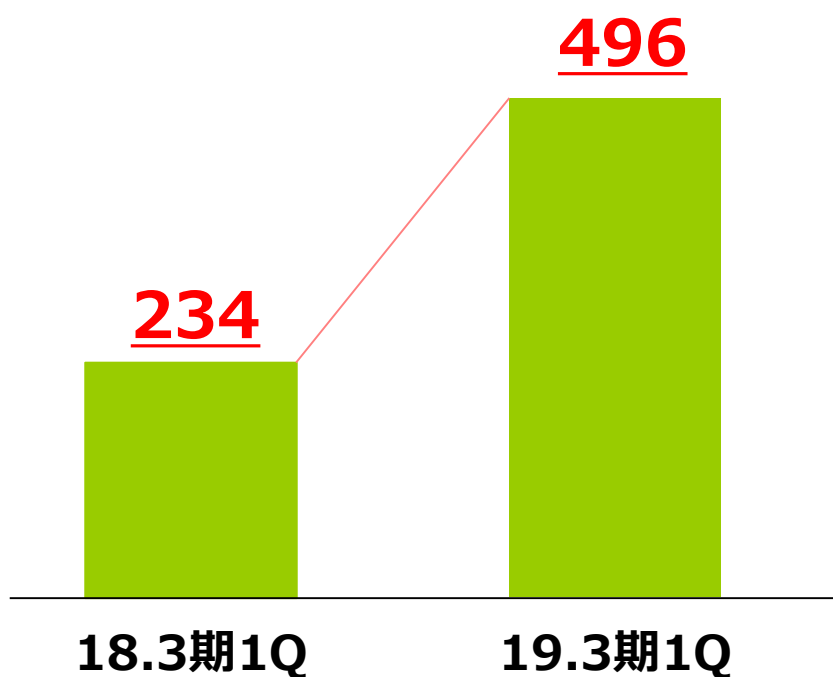
➤ フェニテック

- 販売好調による増収増益でアップ
- 稼働率上昇、生産性向上により収益性向上

(単位：百万円)

	18.3期1Q 実績	19.3期1Q 実績	対前年同期比増減率
営業利益	455	675	48.3%

(単位：百万円)



営業利益の増加に加え、営業外収益として為替差益235百万が発生したこと等により、大幅な増益

(単位：百万円)

	17.3期 実績	18.3期 実績	対前年同期比増減率
四半期純利益	234	496	112.1%

(単位：百万円)

科目	18年3月期末	19年3月期 1Q末	対前期末増減
資産	27,995	29,187	1,192
負債	8,909	9,731	822
純資産	19,085	19,455	370

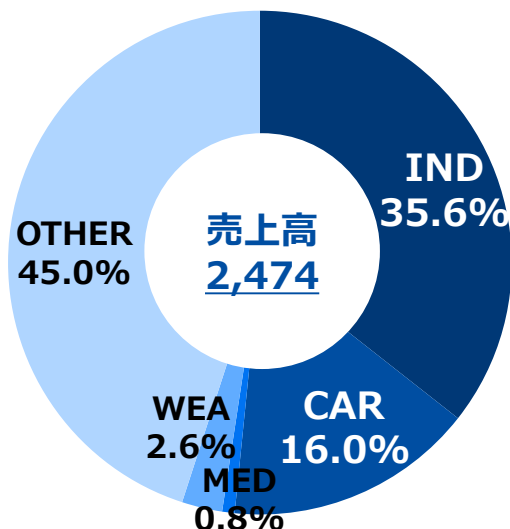
＜参考＞ キャッシュ・フロー関連指標の推移

科目	18年3月期末	19年3月期 1Q末	対前期末増減
有利子負債	5,059	6,117	1,058
自己資本比率	51.8%	54.0%	2.2pt
D/Eレシオ	0.35	0.39	0.04

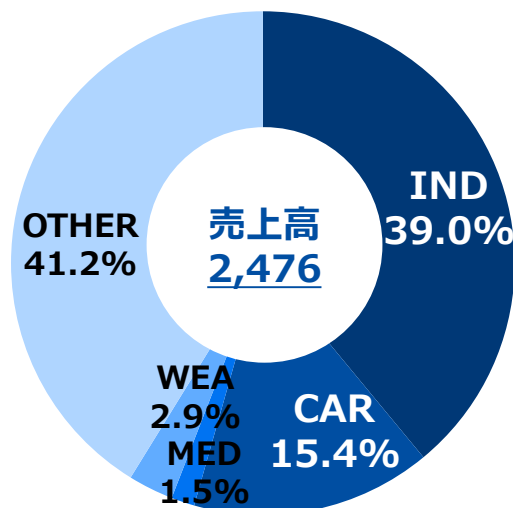
2019年3月期 第1四半期業績 ～アプリケーション別売上高（トレックス）：参考値

TOIREX

TOIREX



18.3期 1Q実績



19.3期 1Q実績

車載・産機シェア

51.6%

(18.3期1Q)



54.4%

(19.3期1Q)

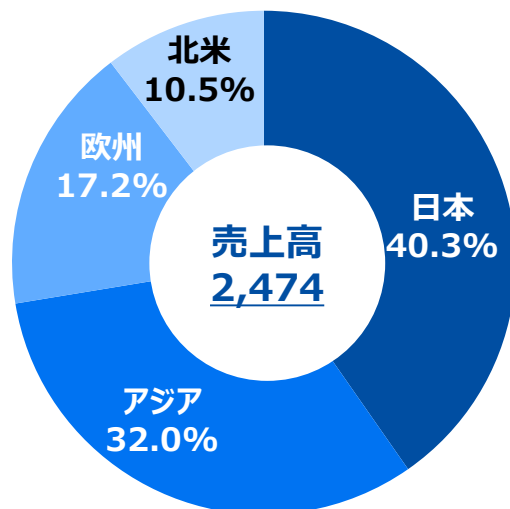
(単位：百万円)

アプリケーション		18.3期 1Q		19.3期 1Q		対前年同期比 増減率
		売上高	構成比	売上高	構成比	
IND	産業機器	880	35.6%	966	39.0%	9.8%
CAR	車載機器	395	16.0%	381	15.4%	▲3.5%
MED	医療機器	20	0.8%	36	1.5%	80.0%
WEA	ウェアラブル機器	64	2.6%	71	2.9%	10.9%
OTHER	その他機器	1,115	45.0%	1,022	41.2%	▲8.3%

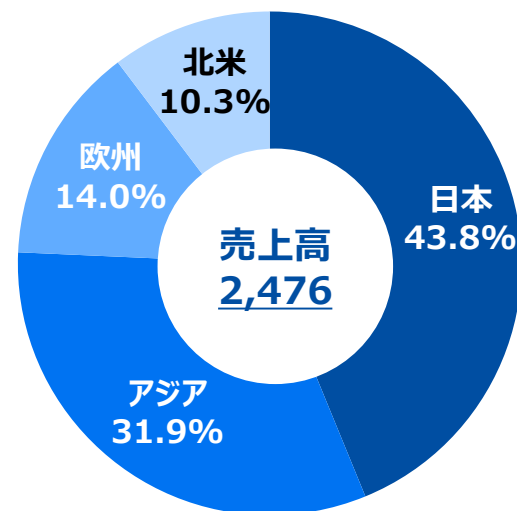
※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

2019年3月期 第1四半期業績 ～地域別売上高（トレックス）

TOIREX



18.3期 1Q実績



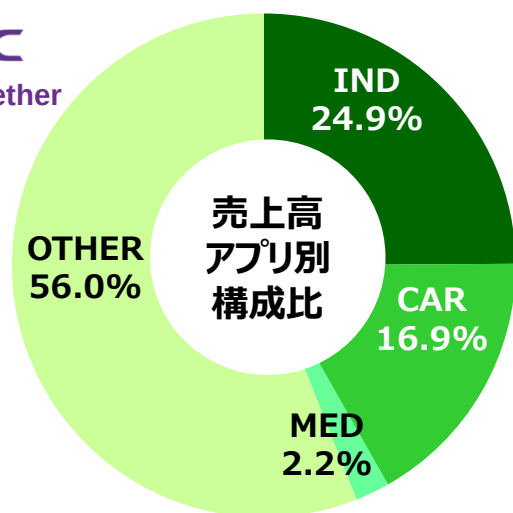
19.3期 1Q実績

(単位：百万円)

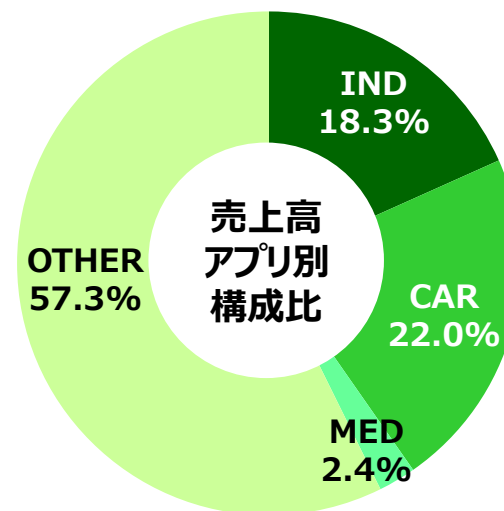
地域（D-in）	18.3期 1Q		19.3期 1Q		対前年同期比 増減率
	D-in 売上高	構成比	D-in 売上高	構成比	
日本	998	40.3%	1,086	43.8%	8.8%
アジア	793	32.0%	791	31.9%	▲0.3%
欧州	426	17.2%	345	14.0%	▲19.0%
北米	257	10.5%	254	10.3%	▲1.2%
平均為替レート（1\$=）	111.6円		108.7円		－

D-in 売上高：デザイン・イン・ベース売上高。当社の製品を搭載した製品が企画・設計され、実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高

2019年3月期 第1四半期業績 ～アプリケーション別売上高（フェニテック）：参考値



18.3期 1Q実績



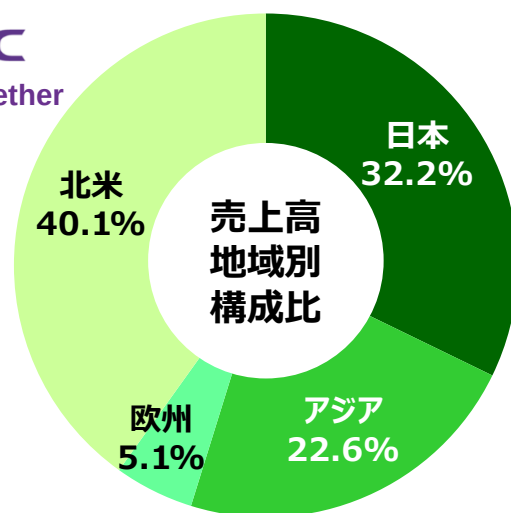
19.3期 1Q実績

(単位：百万円)

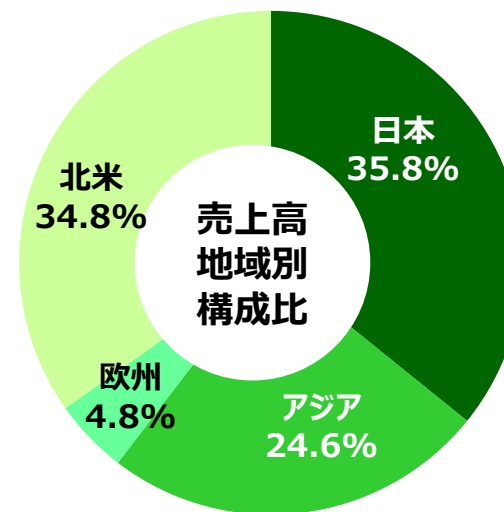
アプリケーション		18.3期 1Q		19.3期 1Q		対前年同期比 増減率
		売上高	構成比	売上高	構成比	
IND	産業機器	896	24.9%	759	18.3%	▲15.3%
CAR	車載機器	609	16.9%	908	22.0%	49.1%
MED	医療機器	80	2.2%	98	2.4%	22.5%
OTHER	その他機器	2,015	56.0%	2,371	57.3%	17.7%

※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。
トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含む

2019年3月期 第1四半期業績 ～地域別売上高（フェニテック）



18.3期 1Q実績



19.3期 1Q実績

※ 顧客の所在地別に区分しています。

(単位：百万円)

地域（顧客）	18.3期 1Q		19.3期 1Q		対前年同期比 増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比	
日本	1,160	32.2%	1,479	35.8%	27.5%
アジア	815	22.6%	1,019	24.6%	25.0%
欧州	182	5.1%	198	4.8%	8.8%
北米	1,442	40.1%	1,440	34.8%	▲0.1%
平均為替レート（1\$=）	111.6円		108.7円		

※注：日本には、トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含む

2019年3月期 業績予想

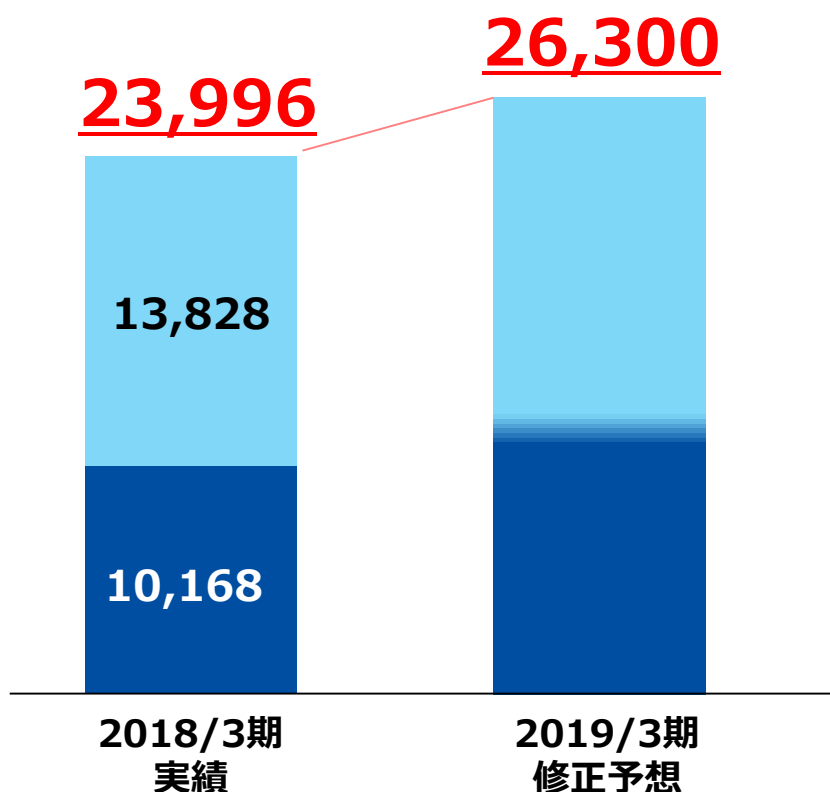
(単位：百万円)

科目	19.3期 上期 当初予想	19.3期 上期 修正予想	対当初 予想比 増減率	19.3期 通期 当初予想	19.3期 通期 修正予想	対当初 予想比 増減率
売上高	12,300	12,900	4.9%	26,000	26,300	1.2%
営業利益	450	1,050	133.3%	1,900	2,000	5.3%
営業利益率	3.7%	8.1%	4.4Pt	7.3%	7.6%	0.3Pt
経常利益	450	1,280	184.4%	1,900	2,230	17.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (*1)	244	700	186.9%	1,070	1,290	20.6%
EPS (円)	22.52	64.60	186.9%	98.76	119.06	20.6%
平均為替レート (1\$=)	¥110.0	¥110.0	-	¥110.0	¥110.0	-
減価償却費	-	-	-	1,409	1,409	-
設備投資	-	-	-	3,679	3,679	-

(*1)海外売上高比率：外貨建て売上比率

(単位：百万円)

■ : トレックス
■ : フェニテック寄与分



・車載、産業機器製品のシェア拡大により増収

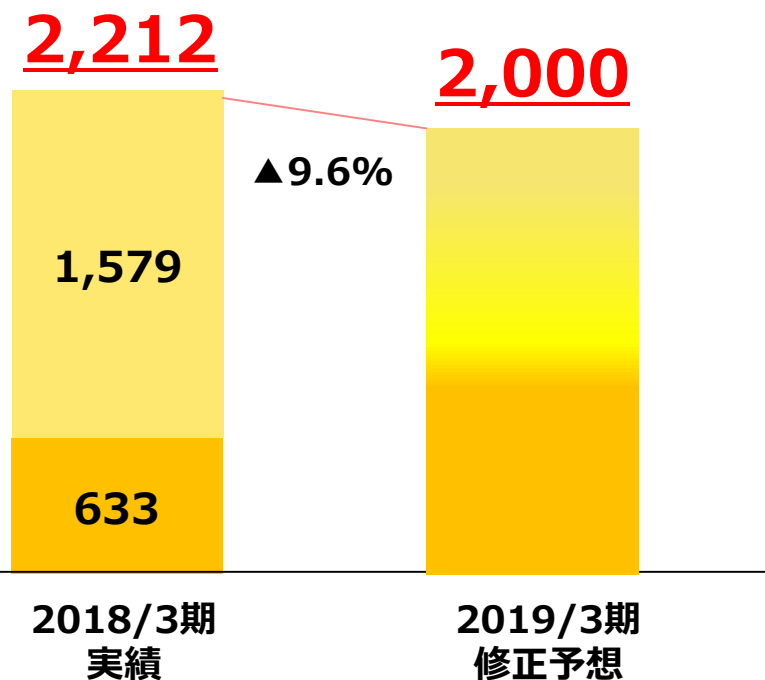
・生産効率向上によるディスクリートの販売増加

(単位：百万円)

	2018年3月期 実績	2019年3月期 修正予想	対前年増減率
売上高	23,996	26,300	9.6%

(単位：百万円)

■ : トレックス
■ : フェニテック寄与分



高収益体制の構築

フェニテック本社工場と第一工場の統合にかかる設備投資と経費増加、更には昨今の材料費の高騰が予想され、売上原価の上昇による一時的な減益が見込まれますが、統合後により高い収益性を持つための取り組みです。

また、工事期間および移転期間中は、本社工場も効果的かつ効率良く稼動を継続させるため、生産体制に影響はありません。

	2018年3月期 実績	2019年3月期 修正予想	対前年増減率
営業利益	2,212	2,000	▲9.6%

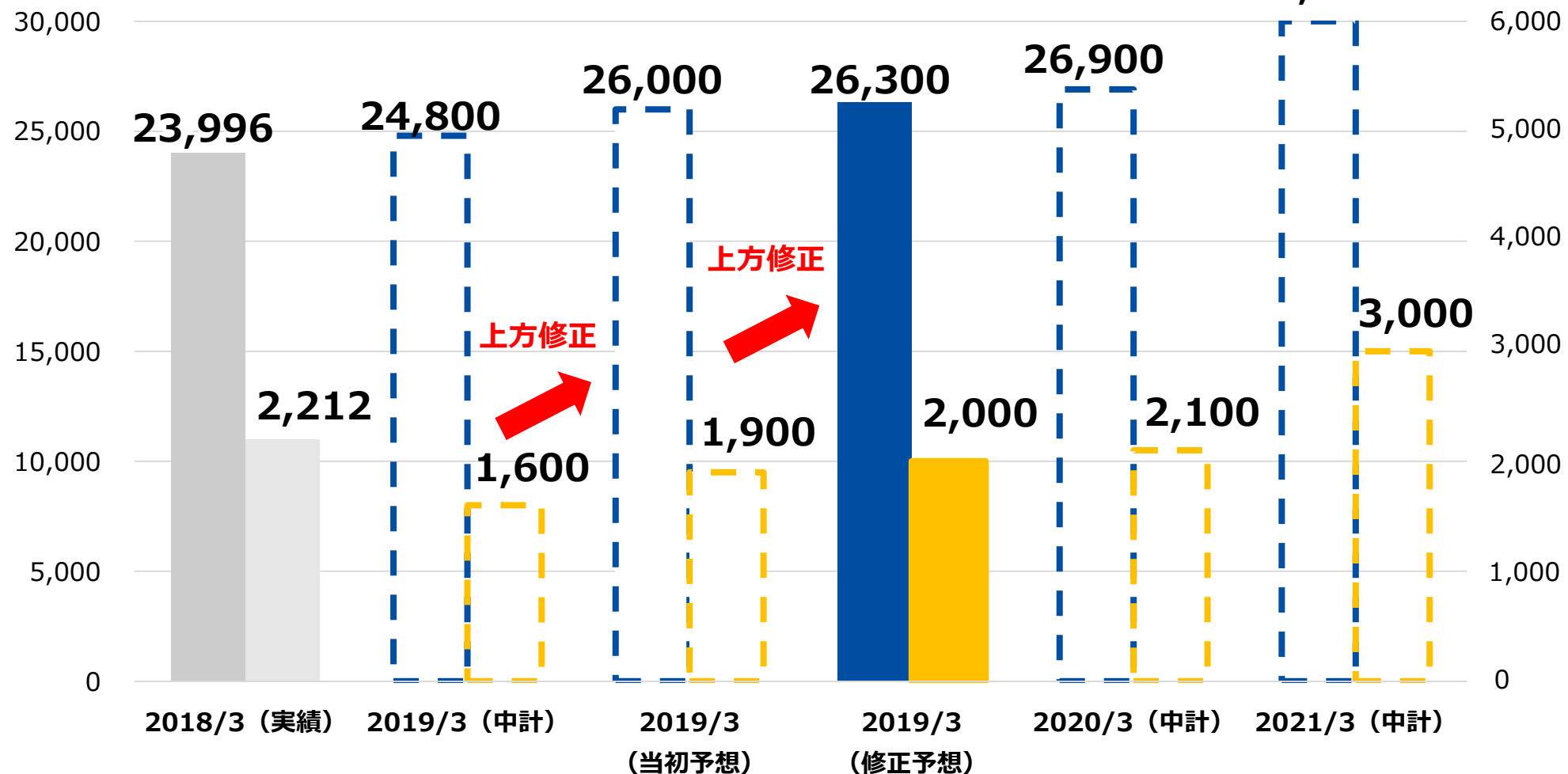
単位：百万円

左軸：売上高

トレックスグループ[※]連結売上高・営業利益の推移

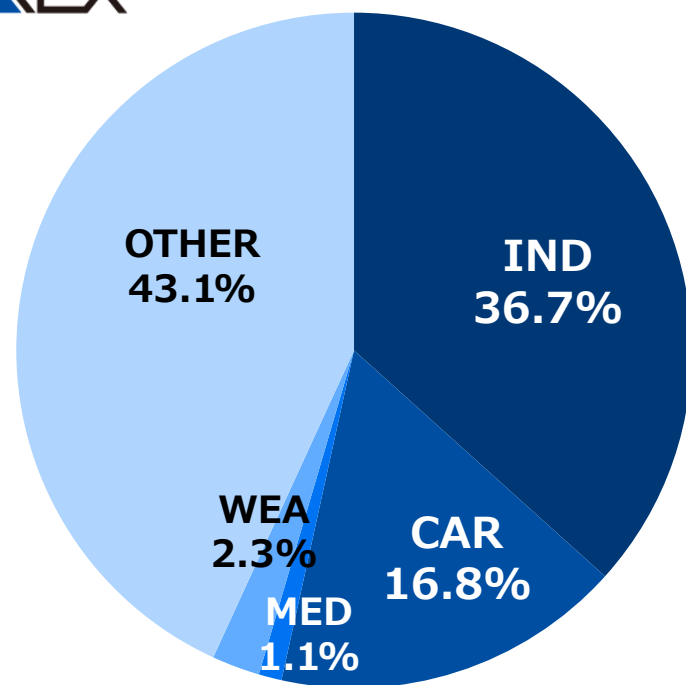
単位：百万円

右軸：営業利益

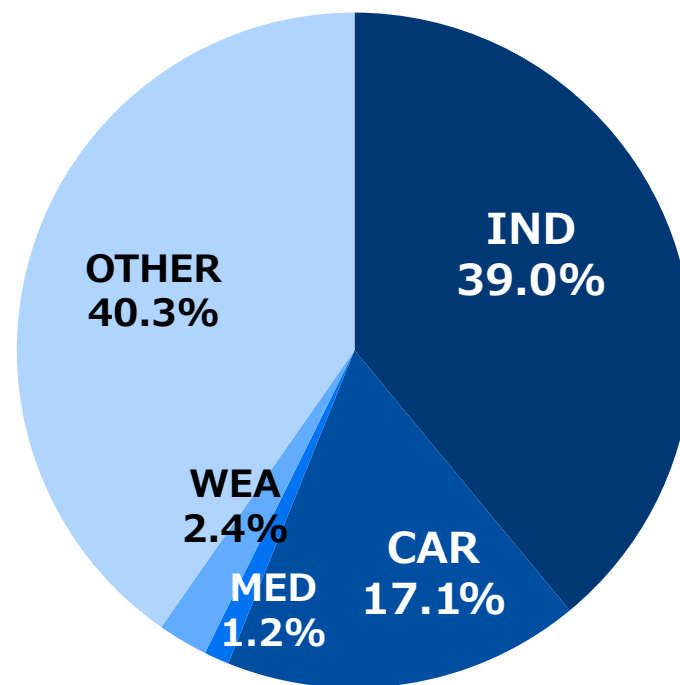


2019年3月期 業績予想 ～アプリケーション別売上高（トレックスのみ）：参考値

TOIREX



2018年3月期 実績



2019年3月期 修正予想

車載・産機
シェア

53.5%



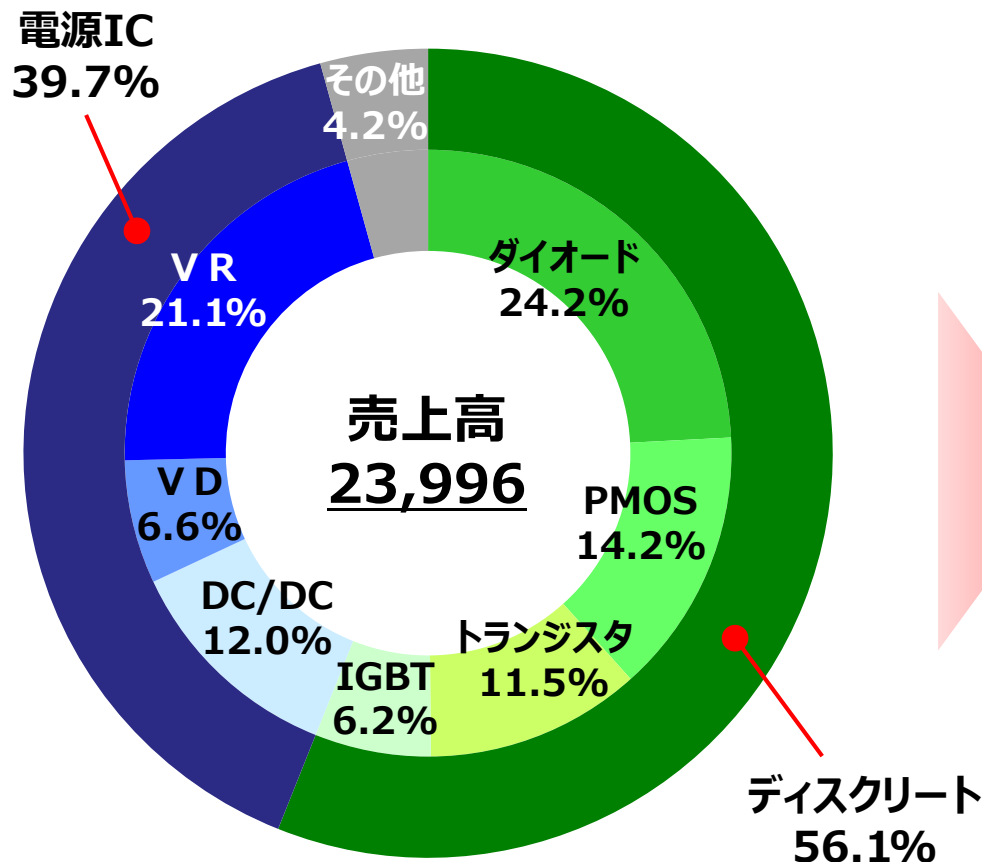
56.1%

※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

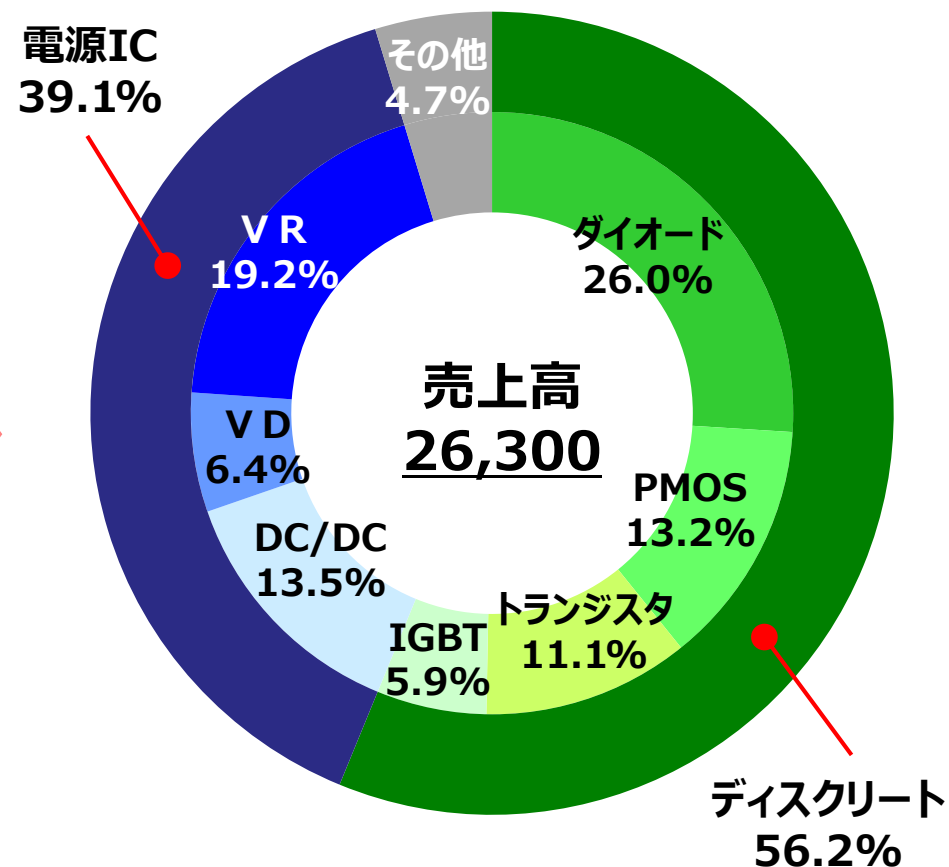
2019年3月期 業績予想 ～品種別売上高（連結 トレックス・フェニテック合計）

世界シェアを有するダイオードや高収益なDC/DCのシェアを伸ばす

(単位：百万円)



2018年3月期 実績



2019年3月期 修正予想

1. 重点市場（高収益分野）でのシェア向上

■ 車載・産業機器ビジネスの強化

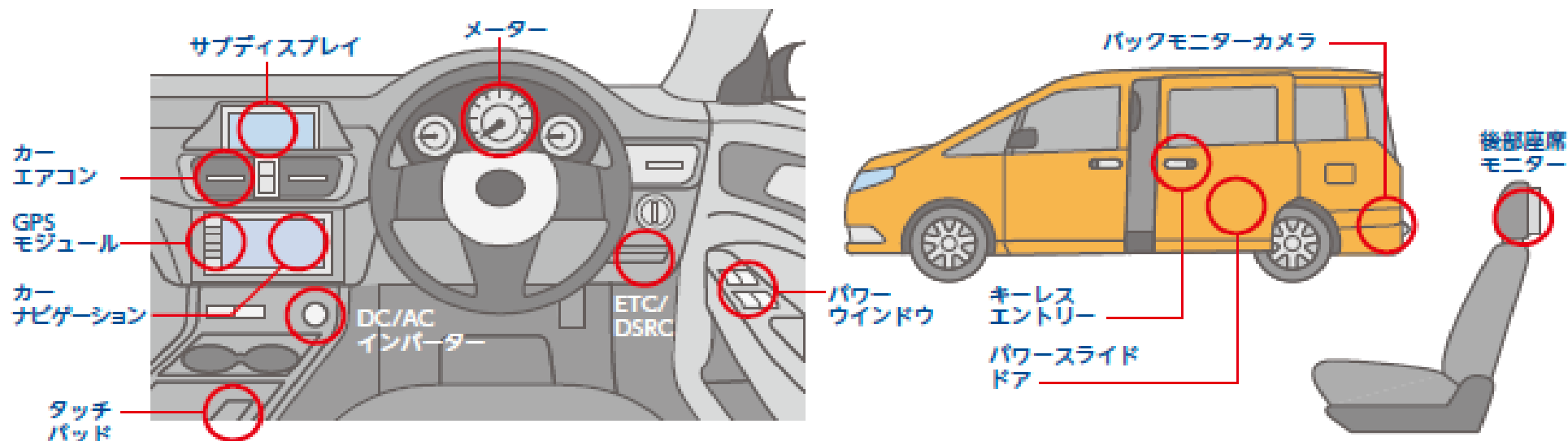
- ・ **車載向け**電源ICの製品ラインアップ拡大（**高品質製品**の継続）
- ・ **産業機器向け**電源ICの製品ラインアップ拡大（**特長ある製品**づくり）
- ・ 中高耐圧パワーデバイスの開発・量産化を推進

2. トレックス・フェニテックのシナジー実現

■ ディスクリートビジネス拡大

- ・ フェニテックのノウハウを活用した、幅広い製品のリリース
- ・ 鹿児島工場の有効活用
- ・ 効率化による、**コストダウン・高収益体制**の構築（工場の統合含む）
- ・ アライアンス（協業関係）の強化

車載製品の採用例



カーインフォテインメント向け電源IC

拡大

自動運転に伴うセンサーやカメラ等ユニットへ向けた電源 I C



・高耐圧、大電流等の車載基準に対応した新製品開発の加速

→ 自動運転に伴うセンサーやカメラへの採用を目指す

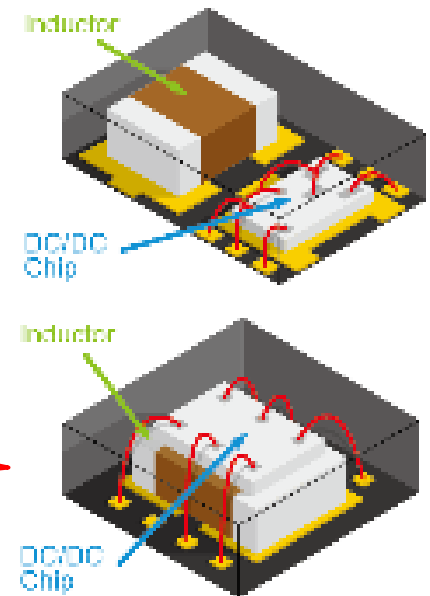
・自動車産業に特化した国際規格 “IATF 16949” の取得推進

→ トレックスグループの品質及び信頼性の向上

・車載品質を備えた「XDシリーズ」のラインアップ拡充

→ 新製品を順次市場投入・発売予定

→ 車載向け コイル一体型DC/DCコンバーター
「XD Lシリーズ」の量産開始



アクティブケーブル／ACC、AOC

- ・ 大容量データ時代の高速データ通信に必須ケーブル / ACC、AOC
- ・ データセンターなどのサーバやストレージ機器の間を光で結ぶ / AOC
- ・ ケーブル端子内に “超小型” で “低ノイズ・高効率安定化電源” が必要

数十ギガビット以上の高速転送ケーブル

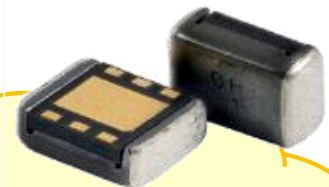
アクティブケーブルに求められる電源ICの性能

低発熱

省スペース

低ノイズ

ここに、TOREXのコイル一体型
DC/DCコンバータが最適



E-Marker 5V	XCL223 2.5V	Equalizer 2.5V
	XCL223 3.3V	CPU 3.3V

新規アプリケーション分野への製品投入

顧客（市場）の要求に応じた、大電流(数十アンペア)駆動の製品開発

⇒ IoT時代の大容量データを扱う機器向け ex. データセンター、サーバー

⇒ 車載分野への展開 ex. EV、ADAS

高性能ICを開発中

新規技術を導入した、付加価値製品の創造



既存技術で
即対応

技術先行する
USA市場

新技術で
付加価値の創造

効果的な
アライアンス

これら高精度を組み合わせ、高い降圧比でも安定動作する DC/DCコンバータ を作る。
まずは、中耐圧降圧DC/DCコンバータから
スタート。

アライアンス（協業関係）の強化

- ・マーケティング
- ・企画力
- ・開発力
- ・品質保証
- ・販売ルート

トレックス

協業関係を構築

シナジー
発揮

Win-Winの協業

フェニテック

- ・高品質
- ・長期安定生産
- ・ノウハウ
- ・解析力
- ・各種認定

A社

ICに組み込む電源回路部分を
設計してほしい。
生産はノウハウがある
工場に頼みたい。

B社

企画・デザインはできるけど、
生産や品質保証、
販売ルートがない。



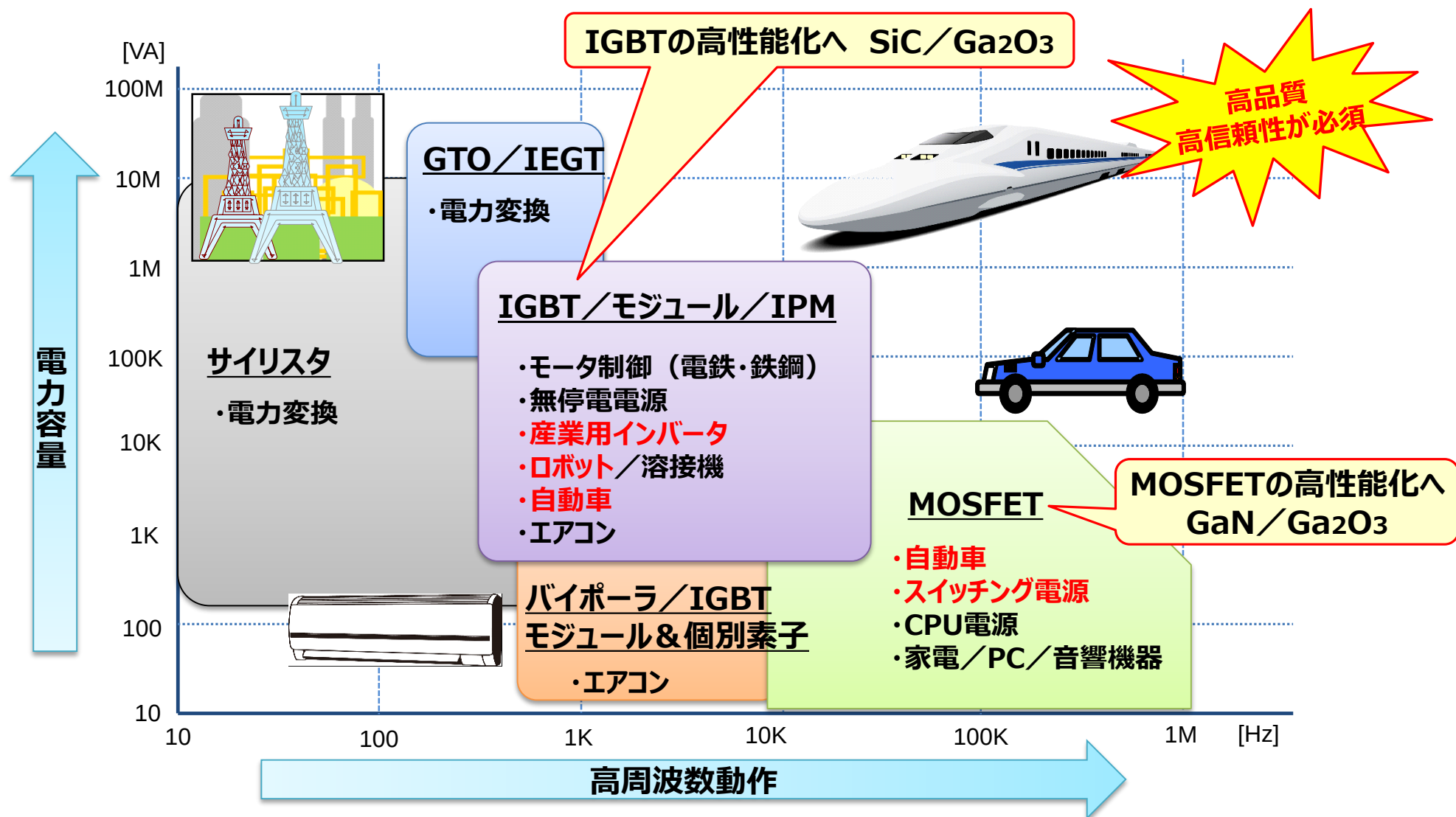
フェニテックセミコンダクターの強み

- ・ 日本で唯一の「ディスクリートファンドリー専門メーカー」
- ・ 優れたQCDによる安定した継続生産
- ・ 小口径（5・6インチ）による少量多品種生産への対応
- ・ パワー半導体・ディスクリートの開発

パワーデバイス

- シリコン系デバイス : IGBT、SJ MOS
- 化合物半導体 : SiC、GaN、Ga₂O₃
- 幅広く“パワーデバイス”をカバーする取組み

フェニテックが扱う 中高耐圧ディスクリート（パワーデバイス）製品の市場



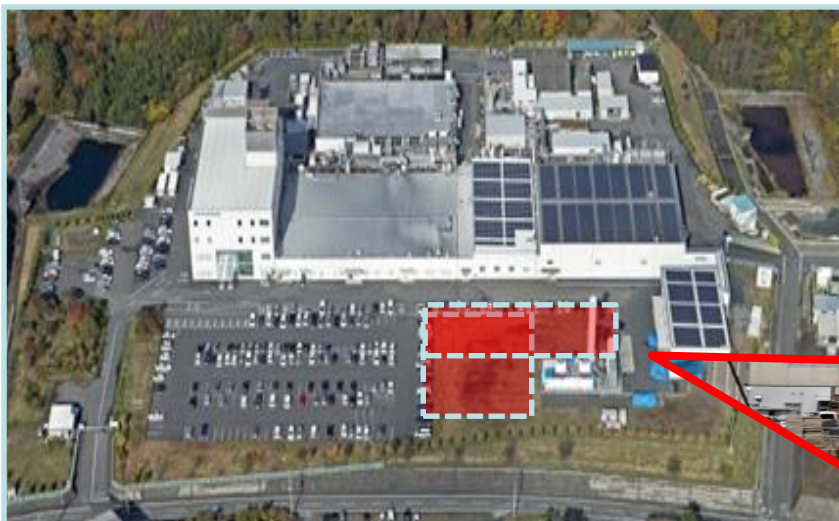
- ・パワーデバイスの量産化（6インチ トレンチIGBT、SJMOS）
- ・トレックス向け製品プロセス開発（アナログ用CMOSプロセス）



- 主な製品
- ・CMOS
 - ・IGBT
 - ・Power MOS
 - ・その他



鹿児島工場



- ①製品の長期安定供給
- ②競争力のある製品づくり
- ③要求の高い車載・産業機器向け
品質の作り込み

本社工場を第一工場へ統合

既存棟増床

試作製品流動

量産用設備移動

新棟建設

お客様の承認を受け、順次量産移管

2018年8月末
竣工予定

移設完了予定

2018年度

2019年度

2020年度

統合効果

- ・製品の長期安定供給体制の継続
- ・5インチ → 6インチ化による生産効率向上（6インチ比率：統合前24% ⇒ 統合後64%）
- ・適切な装置とレイアウトによる生産効率向上
- ・省エネルギー構造の工場による製造コストの低減
- ・車載・産業機器向け品質の維持/向上
- ・新棟工場で重金属加工も対応可能

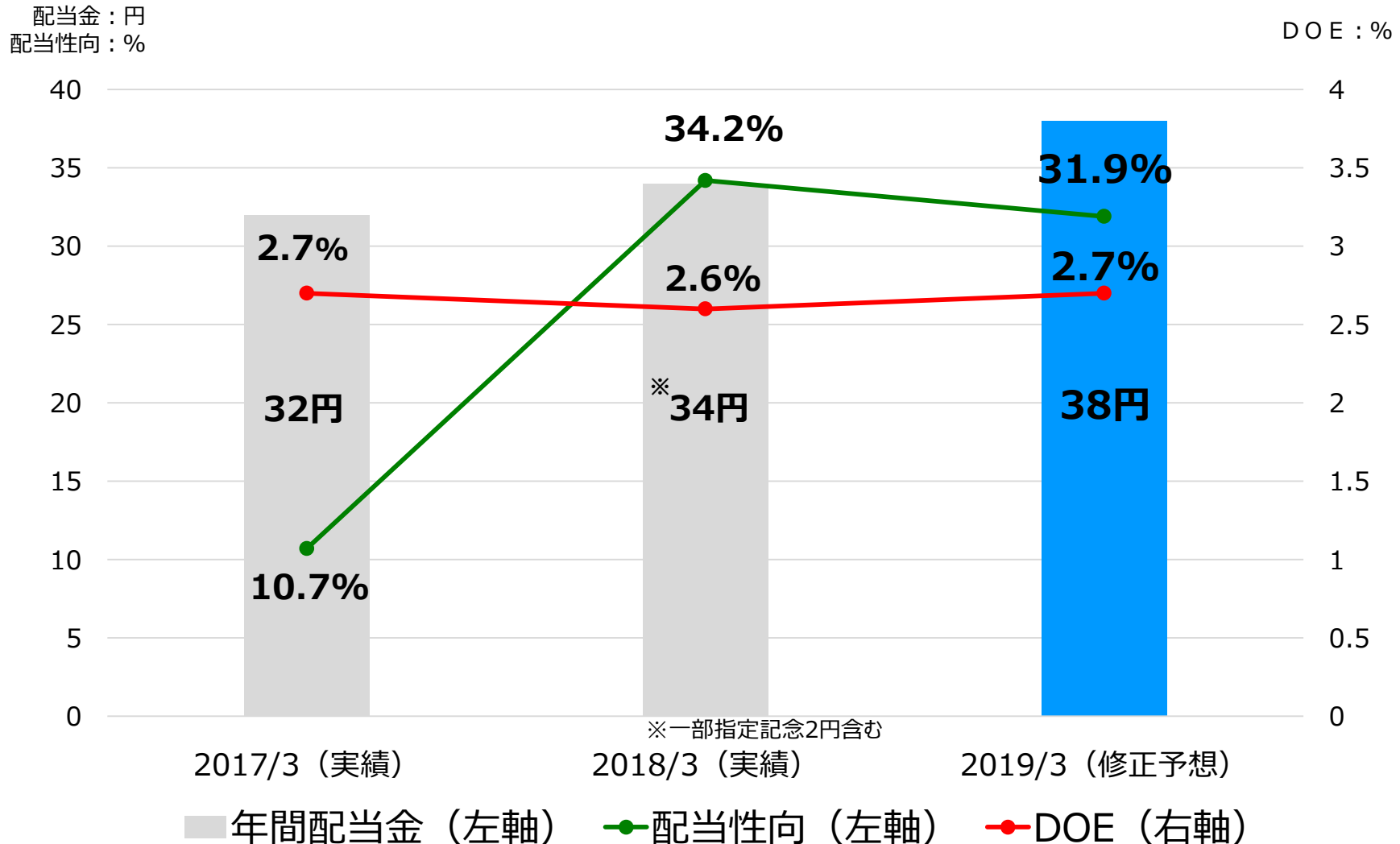
生産性向上
製造コスト低減
高収益体制の構築

株主還元

戦略的投資による成長力の向上を図りつつ、当社を取り巻く経営環境並びに中長期の連結業績及び株主資本利益率の水準を踏まえて実施していくことといたします。

配当につきましては、業績水準を反映した利益配分として連結配当性向20%以上、安定的かつ継続的な株主還元
の拡充として株主資本配当率（D O E）3%程度を当面
の目標として実施してまいります。

連結配当性向20%以上、D O E 3%程度を目安に還元



Appendix 会社紹介

2014年4月にJASDAQスタンダード市場に上場、2015年10月に東証二部に市場変更し、2018年3月に東証一部指定となった、創業23年の半導体メーカーです。

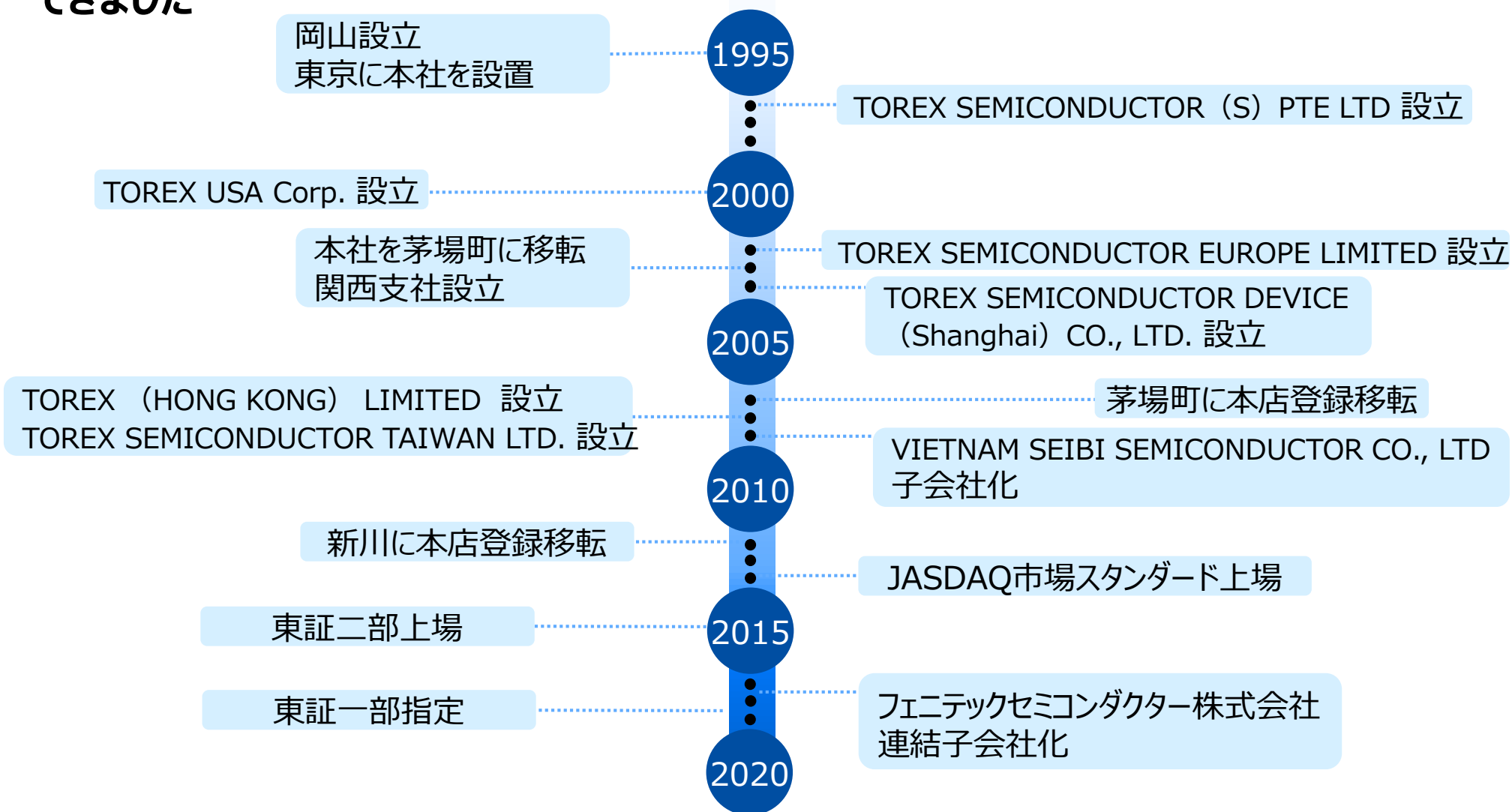
アナログのチカラ
ABOUT TOREX

所在地	東京都中央区新川1-24-1 にぎろ新川永代通りビル
代表者	代表取締役会長 藤阪 知之 代表取締役社長 芝宮 孝司
資本金	29億6793万円（2018年6月30日現在）
事業内容	1.半導体デバイスの開発、設計製造 2.半導体デバイスの販売
従業員数	当社：160名 / グループ：988名
上場証券取引所 及び上場日	東京証券取引所 市場第一部 2018年3月22日
単元株式数	100株
決算期	3月末日
証券コード	6616
URL	https://www.torex.co.jp/

常に豊かな知性と感性を磨き、市場に適応した価値ある製品を創出し、豊かな社会の実現と地球環境の保全に貢献するとともに、私たちの事業に携わるすべての人々が共に繁栄することを企業の理念とする。



- 電源IC一筋、**省電力・小型化**の技術でエレクトロニクス産業技術の発展に貢献してきました



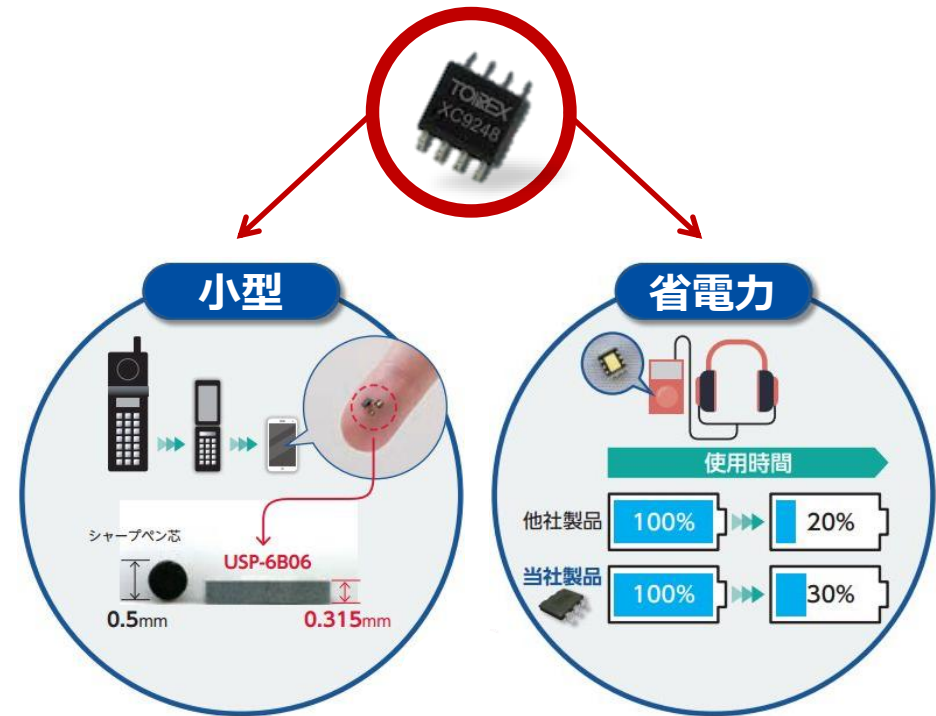
- 世界トップクラスの小型・省電力電源ICを開発・販売しています。

電源ICの役割



電子機器の様々な機能を動かすために
電圧を制御し安定供給する

TOREXの電源IC



独自の技術で電子機器の
小型化、省電力化に貢献

- 国内に東京本社を含む 8 拠点、海外6カ国に8つの拠点を設け、世界の需要に対応しています。



本資料に記載された内容は、2018年8月10日現在において一般的に入手可能な情報と、合理的と判断する一定の前提に基づき、当社が作成したものです。

本資料に記載されている当社の中期計画、見通し等に関する記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。

実際の業績は、これらの要素により本資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

投資に関するご決定をされる際、本資料のみに全面的に依拠することはお控えいただき、みなさまご自身のご判断でなされるようお願い致します。

Powerfully Small!

常に豊かな知性と感性を磨き、
市場に適応した価値ある製品を創出し、
豊かな社会の実現と
地球環境の保全に貢献するとともに、
私たちの事業に携わるすべての人々が
共に繁栄すること

